

取組み概要

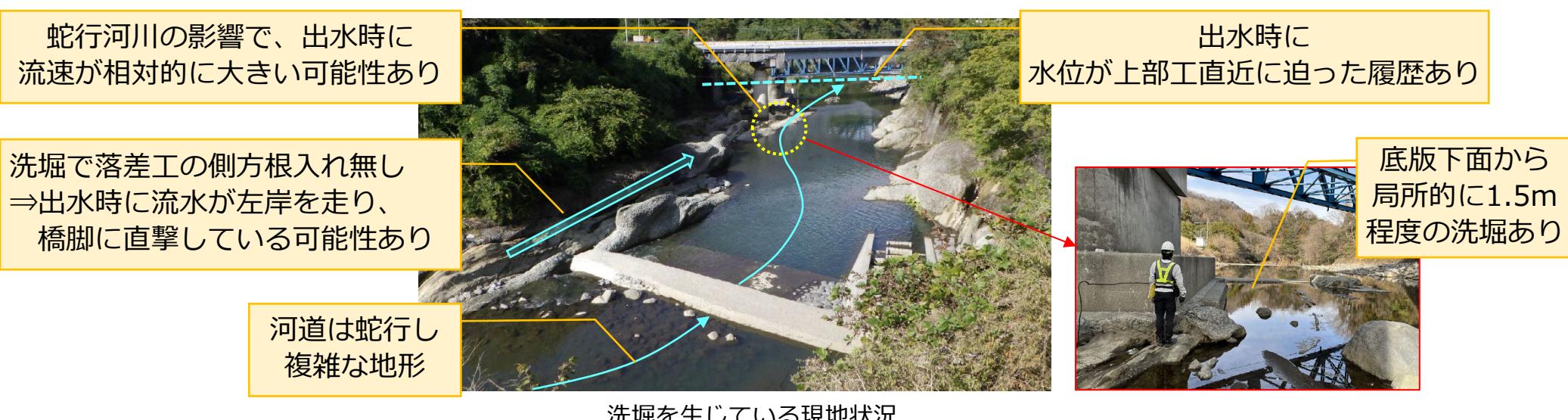
- 【問題点】**
- 橋梁点検で、蛇行する河川の河床低下に起因する河川内橋脚周囲の洗堀が確認された。
 - 河川構造令発刊前に架橋された本橋は、計画高水位が上部工直近に位置する。
 - 一般的な手法での洗堀対策では河積阻害が大きくなり、水位上昇が危惧された。

【課題】 「橋梁基礎の安定」と「水位上昇抑制」のトレードオフ解消。

【取組】 以下に示す3点のDX技術を組み合わせることで、「対策工の影響」を精度高く見積もる。

- ① **3次元レーザ測量** → 3次元流況解析の実施を念頭に、蛇行河川の複雑な地形をシームレスで精度高く取得
- ② **3次元流況解析** → 河床に設置する洗堀対策最適化のため、水深方向の流速分布を算出可能な手法を選択
- ③ **CIMの活用** → シームレスな3次元データを活用した「設計効率化」と「水位と上部工の離隔照査」

⇒3次元のデジタルデータを根拠に「橋梁基礎の安定」と「水位上昇抑制」の両者を同時に成立させる。

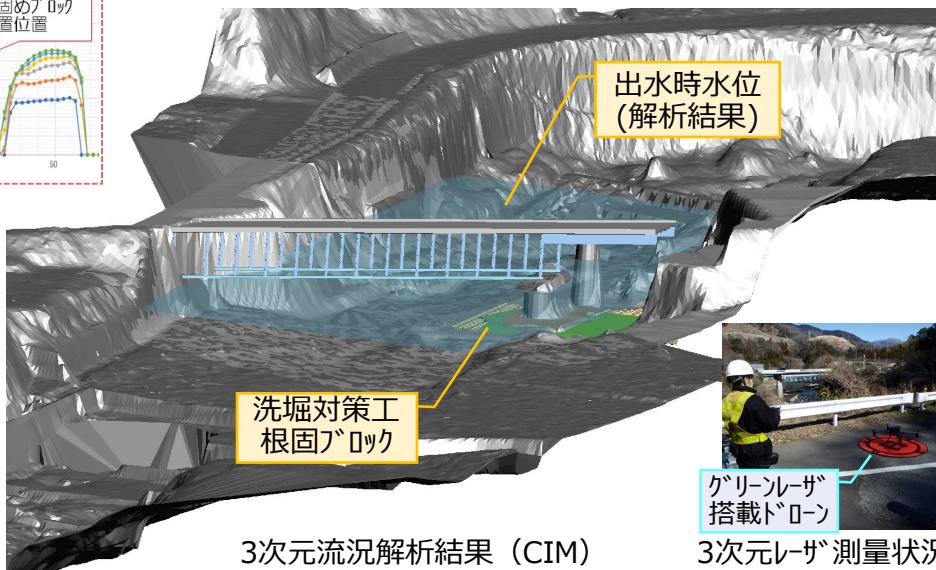
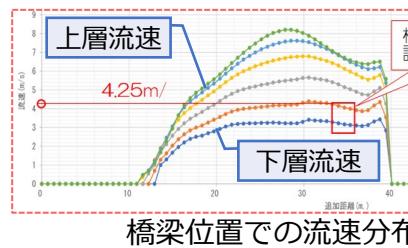


有効性

シームレスな
3次元地形の取得
⇒検討精度向上

詳細な流況把握
⇒水深方向の流速把握
で洗堀対策を最適化

CIMの活用
⇒任意位置での即時
断面切出しが可能
⇒水位分布の可視化



先進性

グリーンレーザによる
3次元河床地形の取得
⇒不可視部の把握！

3次元流況解析
⇒3次元地形を活用し
詳細に流況を把握！

点群のCIM化
⇒データのスリム化
で検討を容易に！

橋梁基礎洗堀対策

～不可視部の河床の状態把握～

- ・河川構造令違反状態の橋梁は相応にある。
- ・将来の架替えを前提に、暫定での安全確保が急務。
- ・近年、基礎洗堀問題が注視されているが、点検・設計とも対応は容易でない。

⇒DX活用の利点を活かした事例！
⇒同種現場課題の解決のヒントに！

波及性

脱『フロントローディング』

～DXを設計に役立てる～

- ・現在CIMの主たる活用方法は、施工への情報引継ぎや、施工時の手戻り防止を目的とした立体的な干渉チェックなど。
- ・設計取組事項は増えるが、事業全体で効率化を図るフロントローディングが基本。これが設計時のDX活用促進を阻む一因。

⇒CIMからDX活用へ考え方を進化！
⇒DXの特徴・利点を設計に活かす！

3次元設計へのアプローチ

～3次元空間で計画する～

- ・i-Construction 2.0の取組みに向け、3次元設計への移行が進められている。
 - ・現状は、2次元設計をベースに3次元化。
⇒3次元での検討が今回の解決要因！
 - ・本現場では設計中に応急対策工事を実施
 - ・施工者とは3次元地形データでやり取り
- ⇒測量・設計において、『省人化』『工程短縮』『安全確保』を実現！